



# 町民文芸

## 只見短歌会

十二月詠草

大塚栄一

指導

久びさに級友と出会ひて懐かしく話せば若き日の事のみ多く

馬場 八智

降雪のあるや無しやを確かめて朝毎安堵し窓辺離るる

目黒 富子

会合で思ひがけずに頂きし大き鉢植をシクラメン映ゆ

関谷登美子

週一度折込みのクイズ楽しめる老い母齡九十三なり

新国由紀子

リウマチの病に天氣がさはるのか雪の予報に痛みのほげし

渡部ゆき子

雪の無き晴れ間の師走にサンダルで歩道歩くも風は冷たき

渡部ヨリ子

発熱の熱き手をもてひい孫はわれの冷たき両の手包む

新国 洋子

(出詠順)

## 只見俳句会

一月定例会

目黒十一

指導

遠山をくるむ雲あり枯野道

味代子

消灯をつげるナースのカーディガン

弘子

瀬音無くダムより流る冬の川

礼

ただひとつ戦なき世と初詣

初雪や母の呉汁は実沢山

礼

働哭か歓喜か霜の雑木林

一穂

歳の暮村に残りし店閉じる

修一

三日目やお平の残り味染みて

吹雪来る母の角巻子を包み

仕方無く血圧日記使い初め

夕空の句碑にかがやく竜の玉

吉見

十六橋戸の口原も雪景色

幸生

新海苔の折る音旨き朝餉かな

寒波来よと思う日もあり雪祭り

初春や箱根路走る若人あり

ランタンに願いを込めて初景色

信

息白し母の小言も懐しく

都

包み込む白髪こぼる冬帽子

